（管理規則第３条実施要領　別紙様式）

2022年度（令和４年度）学校評価自己評価表

向丘中学校区	校番２２	福山市立高島小学校
	最終更新日	2022年（令和４年）10月11日

Ⅰ　福山市

ミッション　福山に愛着と誇りを持ち，変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン　「福山１００ＮＥＮ教育」の基本理念のもと，各中学校区・学校が「２１世紀型“スキル＆倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し，日々の授業を中心として評価・改善を進めながら，子どもたちの確かな学びを実現している。

Ⅱ　中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容

- それぞれの学校での自己評価表により取組が整理されている。
- 不登校への取組に関しては，児童の実態把握と家庭との信頼関係の醸成が必要である。
- 中学生になった時に，小学校で身に付けた力が発揮できる学力を身に付けてほしい。
- 正解のない問いや事柄を考えることの楽しさを伝えてほしい。

児童生徒の現状

- 自分の思いや考えを表現する力が十分には身に付いていない。
- 自己肯定感や自己有用感が低い児童生徒がいる。
- 粘り強く取り組む事が苦手な児童生徒がいる。
- 様々な状況により，不登校になっている児童生徒がいる。

育成する力（21世紀型“スキル&倫理観”）	学習の基盤となる力，学びを深める力，自己有用感
めざす子ども像（義務教育修了時の姿）	人とのかかわり合いを大切にし，学ぶ意欲を持ち，自分の生き方を主体的に考える子ども
中学校区として統一した取組等	○中学校区の学校，教職員が自校の取組（研究テーマ）を「深く」理解し，自主性・主体性を発揮し，「子ども主体の学び」の実現に向けて取り組む。 ○各校の実践や研究について交流を深め，職員の主体性の向上や意識改革のきっかけとする。 ○お互いの具体的な実践の交流から課題意識，自己研鑽の意欲を持ち，個人的に授業参観，放課後の相談等，教職員が起点となる研修を推進する。

Ⅲ　自　校

ミッション

保護者や地域から信頼される学校を創るため，教職員が一致協力（オール高島）し，法規法令に則り，秩序と活力ある教育活動を展開する。

学校教育目標

しなやかでたくましい心と実践力を育てる
～学びを鍛え　心を鍛え　体を鍛える～

現　状

＜児童生徒＞
○課題を解決していこうとする学習意欲，自らの学びを振り返る力は徐々に身に付いてきている。
○異学年で関わり合いながら，課題を解決することができてきつつある。
●上手くいかないことや苦手なことに対しては，チャレンジしようとする意欲が低いため，何事にも前向きにチャレンジしやり抜こうとする態度を高める必要がある。
＜授業＞
○研究教科を中心に，学習意欲の向上，協働的な学び合いを意識した授業づくりを進めてきた。
●児童の学力向上に向けて「認知のしくみ」から授業改善が進んでいない。

育成する力（21世紀型“スキル&倫理観”）		「学習の基盤となる力」	「学びを深める力」	「自己有用感」
めざす子ども像	1年 2年	・物事の中から問題を見つけることができる。 ・自分の考えを理由とともに相手に伝えることができる。	・友達と関わり合い，考えを伝え合うことを通して，自分と似た考えや異なる考えに気付くことができる。 ・自分の考えが相手に伝わっているか確かめることができる。	・友達の頑張りや良さを認めることができる。 ・自分の頑張りや良さが他の人に認められていると感じている。
	3年 4年	・問題解決の方法を考え，計画を立て問題を解決することができる。 ・理由や事例などを挙げながら，伝えたいことの中心を明確にして説明することができる。	・友達の考えと自分の考えを比較することを通して，自分の考えを修正したり深めたりすることができる。 ・友達の考えを聞いて考えたことを友達に返すことができる。	・学級や集団のために役割を果たす友達を認めることができる。 ・自分が学級や集団の一員として役立てていると感じている。
	5年 6年	・問題解決について結果を予測しながら実行し，振り返る中で次の問題について見つけることができる。 ・目的や意図に応じて，根拠を明確にし筋道を立てて説明することができる。	・自分の考えを修正したり深めたりして，次の課題を見出すことができる。 ・友達の考えに対して自分の考えを返すことで，友達の考えを修正させたり深めたりすることができる。	・学校や学級，集団のために行動する友達を認めることができる。 ・自分が学校や学級，集団の中で欠かせない存在であると感じている。

研究	テーマ	理科，特別の教科道徳
	内容等	『感じ　考え　実感したことを自己表現できる児童の育成』 ～認知の仕組みを生かした導入の工夫改善を通して～
めざす授業の姿		・既習事項や生活経験を踏まえた導入の工夫 ・必然性のある思考・説明の場づくり ・振り返りの充実 ・授業改善のマネジメントサイクル ・多様な評価方法による学習状況の把握，改善

Ⅳ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立高島小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（2月末）				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
1	自己を理解し学ぶ意欲を持ち続け主体的に考え，伝えられる児童の育成	★	見直し	・自己の成長を実感することができる。	・つける力を明確に持った上で，生活経験や既習の学習内容を基にした導入の工夫を行う。 ・単元の初めと終わりに，単元に関わる知識について知っていることを記述して共有し，友達や教師から肯定的評価を行う。	●児童の振り返りの中で自己の成長を実感している児童を90%以上にする。	□児童アンケートでは,89％の肯定的評価となった。 □生活と関連付けた導入を意識し，学期に１本，単元の発問計画を作成した。 □理科の学習において，単元の始めと終わりで自分の知識を比較することで，児童が自己の成長を実感できるようになってきた。	３	３	・毎時間，振り返りの場を持ち，自分ができたことや分かったことを振り返ることで，成長を実感できていない児童の自己肯定感をあげる。 ・振り返りの視点を明確にすることで，児童が自己の成長や課題に気付くことができるようにする。					
			見直し	・自分の考えを分かりやすく相手に伝えることができる。	・つける力を明確に持った上で，生活科や理科において単元の導入計画を立てる。 ・友達と複数回対話を行い，自分の考えを分かりやすく伝える。	●自分の考えが相手に伝わっていると感じる児童を80%以上にする。	□児童アンケートでは,75％の肯定的評価となった。 □学習後の児童の姿をイメージしたうえで，学期に１本，単元の発問計画を作成した。 □感染症対策のため，児童同士の対話があまりできていない。	２	３	・話し合いをするときの話型を提示し，児童が自分の考えを表現しやすいようにする。 ・全ての教育活動を通して，自分の考えが伝わっていることを実感させるために，聞き方のポイントや対話を促すための教師の手立てを共有する。					
1	何事にもくじけず前向きにチャレンジしようとする児童の育成	★	見直し	・自ら考え目標に向かいやり抜くことができる。	・行事ごとに児童が目標を持ち，行事に対する自分の取組について振り返りを毎時間行う。 ・特別活動や道徳（希望と勇気，努力と強い意志）等と関連を図り，日常生活とつなげて行動化できるようにする。	●学校行事や日常生活の振り返りで，目標に向けてやり抜くことができたと肯定的評価をする児童を80%以上にする.	□児童アンケートでは，96%の肯定的評価となった。 □行事ごとに自分の取組を振り返ることで，達成感や自己肯定感を高めることができた。 □授業と日常生活を関連付けて考えることで，自分事として考え，目標に向けて行動化できるようになった。	４	４	・行事ごとに目標を決めるだけでなく，ICT の活用をする等，視覚化することで児童が意識して取り組むことができるようにする。 ・目標に向かいやり抜くことができたか，そのために自分がどう行動したかという視点で，毎時間自分自身を振り返る。					

		★	見直し	・新たな不登校をゼロにする。	・スクールカウンセラーや養護教諭等と連携を行い，保護者との連携の場を設定する。 ・SSTやSGEを計画的に行い，子供と教師，子供同士の関係作りを行う。	●欠席日数 30 日以上の児童を０人にする。	□欠席日数 30 日以上の児童は２人であった。 □SST や SGE を毎週月曜日に行い，ソーシャルスキルを身に付けたり，人間関係づくりに努めたりした。	３	2	・児童アンケートから児童の実態を把握したり，保健室のカウンセリング機能を生かしたりしながら，保護者や児童の思いを聞き，対応策を考える。 ・年間計画に沿って SST や SGE を行うと共に，アセスを活用し，学級にあった活動を意図的に仕組む。					
1	児童が体力の向上を実感できる指導方法の工夫・改善		見直し	・指導技術の向上を図る。	・指導計画に基づいた指導の共有化を図る。 ・「高島っ子タイム」を計画的に行い，体づくりに対する児童の関心を高める。 ・家庭と連携しながら運動の日常化を目指す。	●スキルが向上したと感じる職員を85%以上にする。 ●握力の平均値を県平均以上にする。	□毎月，体力つくり研修を行い，指導力を高めた。スキルが向上したと感じている職員 100%であった。 □握力については，2020 年度の全国平均の結果と比べて，１年生女子・２年生男子以外は。到達できていた。	３	３	・毎月，色々さまざまな領域を行うことで，指導力を高められていると感じる職員が多くいる。継続して行うことでさらに指導力を高めていく。 ・握力については，県平均が発表されていないが，2020 年度の全国平均と比べてほぼ達成できている。そのため平均値が低い，長座体前屈と反復横跳びについての体力つくり研修を行い，基礎となる運動を体育の時間に行っていく。同じような運動を家庭でも取り組んでいけるように，ワークシートを作成し，通信で協力をお願いしていく。					
３	・働き方改革を推進し，教職員が元気で意欲を持ち，達成感を感じながら働くことができる職場づくり	★	継続	・業務改善を推進し，子供と向き合う時間を確保する。	・熟議を学期最低1回は実施し，効率化についての共有化を図る ・No会議dayを週2回，定時退校日の確実な実施，会議の短縮を行う。 ・退校ボードを活用したタイムマネジメント意識を醸成する。	●業務改善に関わるアイデアを年に 1 回以上出した職員 100% ●個性が認められていると感じている肯定的評価 80%以上 ●授業づくりを行う時間が確保されている肯定的評価 80%以上	□個性が認められていると感じている教職員 71.4%，授業づくりを行う時間が確保されている教職員 0%であった。No 会議 day を２日設けているが，校務分掌や研修に充てる時間が多いと感じている。	３	３	・２ 学期にも熟議を実施し，業務改善を行う目的についての共通理解を図り，できることから取り組む。 ・No会議day2日の内，1 日を授業づくりの時間に設定する。 ・研修も子供と向き合う時間だという事について，再度伝える。					

［プロセス評価の評価基準］

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

［達成評価の評価基準］

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し，十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し，望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し，一定の成果をあげた。
2	目標を下回り，成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り，成果が認められなかった。

［総合評価の評価基準］

評点	評価基準	
5	１００％以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	８０％以上１００％未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	６０％以上８０％未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	４０％以上６０％未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	４０％未満の達成度	目標を達成できなかった。